

その結果並に渤海國に關する紹介講演が帝室博物館主催の下に十月二十一日午後東京美術學校講堂に於て原田、白鳥兩氏を講師として開催され、且つ收獲の主要なるものが十月十六日より翌十一月五日に亘つて帝室博物館に出陳された。

渤海國上京遺蹟出土佛像

帝室博物館藏寫眞

陳列品の主要なものは諸宮殿並に寺址發見の甃、瓦等の諸建築裝飾陶片、石獅頭、壁畫斷片、塑、甃、金銅等の各種佛像、銅製馬形佩飾、玻璃器、陶器、土器等の各種に亘り、寫眞には城廓、宮殿、寺院各遺址、東南大廟石燈其他があつて併せて當時の状態を彷彿せしめるに足ると共に、更に朝鮮、支那、日本の關係文獻、瓦甃等の資料を陳列して文化の系統を知るに參考せしめたのは、收獲の貴重であつたことと共に用意に富んだ展觀であつた。

聞くところに據れば該遺址の發掘は更に第二、第三次の計畫が企てられてゐる由であるが、之等の調査とその結果の詳細なる報告の發表のなほ一日も早からんことを希望したい。(渡邊)

松本雙軒菴舊藏品第二回賣立

嚮に六月中旬及び下旬に涉つて第一回の賣立を行つた雙軒菴主松本松藏氏の舊藏品は、去る十月中第二回の賣立を催し、同月二三日大阪美術俱樂部、七日午後より十日に亘つて東京美術俱樂部に於て各下見、七日午後は特別な鑑賞

内外衆報

家に、八日は招待日に宛てられた。入札及び開札は東京に於て行はれ、總點數三百、船窓小戲帖以下、第一回と同じく竹田及び山陽を主とするほか、大雅蕪村合作十便十宣帖、古筆大手鑑、蔦細道時繪硯管等の名品が加へられ、總賣上八百八十六萬餘圓に昇る、第一回に亞ぐ大入札であつた。目錄は第一回の例を襲うて「續雙軒菴美術集成圖錄」と題する菊倍判、タイプ木版色刷一枚、網版三色刷十六枚、同單色刷三百三十五枚、各圖に詳細なる解説を付し、附録として横川毅一郎氏の論說「南畫と北畫」を卷末に添へ、前輯同様外狩素心菴氏の統轄の下に編輯されたものである。(渡邊)

侯爵須賀家藏品賣立

侯爵須賀家の收藏は世襲の名品に加ふるに先々代茂韶侯の蒐集にかゝるもの尠からず、國寶保存法の施行以來、早くも昭和六年十二月紫式部日記繪詞、西行物語繪詞の二點、今八年一月傳周文筆山水圖、太刀銘正恆、太刀銘吉家の三點が指定されたが、今回その主要なるもの二百五點が整理賣立に出された。賣立は東京美術俱樂部に於て十月二十日招待日、二十一、二日一般下見、二十三日開札を行ひ、品目には前記國寶五點の外稚兒觀音繪卷、豐國祭圖屏風以下、近代畫、古筆、道具類、刀劍等をそれぞれに見るべきものが多く、比較的粒揃の賣立として近來稀であつたと云へる、總賣上百十五萬圓餘。(渡邊)

東京美術學校特別展觀

東京美術學校では十一月一日より十五日まで明治大正時代の畫家の從來あまり公開されぬ作品を主とする特別展觀を行つた。蒐められた範圍は春草、廣業、春學、觀山等の物語畫家より現存の同校諸教授等に及び、小品に富める好小展觀であつた。又別館に於て先に寄贈を受けたラグーザの彫刻數點が出陳され、尙十一月四日同校創設記念日には大觀の「生々流轉」を參列者に展觀した。

(渡邊)